

学校名 豊島区立 要小学校

校長名 渡部 貴美子

学校の教育目標

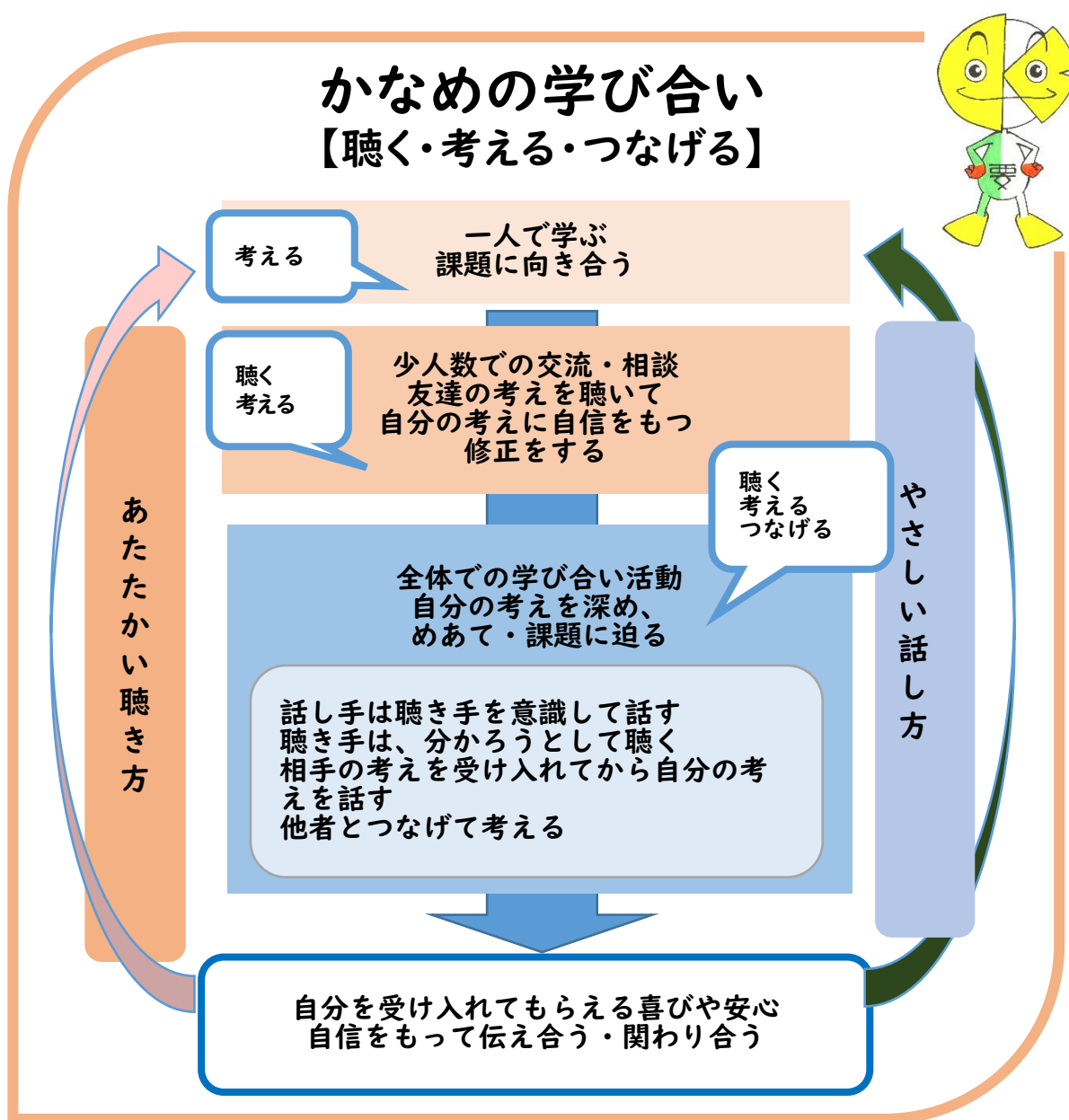
・健康で、たくましい子 ・思いやりの心もち、協力する子 ◎よく考え、進んで学ぶ子

学力に関する目指す児童像

かなめの学び合い

～「聴く・考える・つなげる」with「あたたかい聴き方・やさしい話し方」～

授業改善推進プランの全体像



令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
・言語活動を通して、読み書きの基礎を身に付け、適切に表現する資質・能力を育成する。 →朝学習（要タイム）を活用して、基礎基本を定着。 ・自分の言葉で発言したり、みんなで話し合ったりすることができる力を育成する。 →「初め・中・終わり」の文型を意識した作文や発言（自分の考えをしっかりとみつ）。 →話し合い活動での学び合い。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・ひらがなの読み書きができる。 ・友達と音読の工夫ができる。	→ひらがなのほとんどが読み書きできるように、励ましながら指導していく。 →役割演技を取り入れて、音読をする。
低	2年 △句読点、はをへ、拗促音、作文用紙の書き方 △カタカナ、漢字の習得が難しい児童がいる。 ○結果や気持ちだけでなく、理由も伝えたり書いたりできるようになってきた。	→見直しの定着（指を使う。読んで確かめる。） →朝学習で継続して取り組む。ノートの中で活用させる。 →自力解決の時間をしっかりと確保し、ペアでの伝え合いを意図的に設定していく。
中	△語彙力がなく、文章を書く力が乏しい。 △学力調査では、説明文を読み取る力に課題がある。 ○班での伝え合いに抵抗がなくなってきた。	→教科書の言葉の宝箱を活用し、語彙を広げる。適宜、辞書を引き、言葉の使い方の例を増やしていく。 文章の型を繰り返し練習し、書きやすくする。 →授業内では説明文を書いた筆者の問いを十分に意識させてから、段落の要点をまとめ、結論につなげていく。また朝学習（要タイム）、音読で短い説明文を繰り返し読み、作者の問いと結論を確認させていく。
高	5年 △「話す・聞く」の学習で、ルールに則って話をすすめていく力に課題がある。 6年 ○言葉の特徴や使い方に関する事項については、区の平均正答率を上回った。日頃から漢字の読み書き・使い方の練習が成果を上げている。 △説明文を読み取る力や報告する文を書く力に課題がある。	5年 →話す項目を明確にしてメモをさせるようにしたり、自分の話をさせるような言語活動を充実していく。 6年 →漢字の読み書き・言葉の使い方は、今後もタブレットPCを活用して、力を身に付けさせる。 →説明文を読み取る力は、文を読むとき、問題提示されたことはどんなことなのかを読み取らせる練習を積み重ねていく。また、文を書くことに関しては、始め・中・終わりを意識し、文の構成を立てさせてから書くようにさせていく。そうすることで、何を伝えたいのかが明白になってくるとされる。構成を考える際にも、タブレットPCを有効に活用させる。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする力を育成する。また、我が国の将来を担う国民としての自覚や世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。 →体験差を補うためにタブレット等を活用。 →社会科の見方・考え方を身に付けられるような課題解決学習の設定。(低学年から意識して行う。) →視点を明確にした資料の読み取り。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△豊島区や東京都の様子について、家庭での体験差により、知識差がある。 △課題を感じずに日常生活を過ごしており、解決学習への意欲が乏しい。	→タブレット等を活用して、動画やバーチャル体験を多様化し、体験差を少しでも減らす。 →指導者側が日常的に社会科の見方・考え方を表し、地域への興味・関心、課題を引き出す。
高	5年 △資料から必要な情報を読みとってまとめる力に課題がある。 6年 ○日本の農業に関しては、区の平均正答率を上回っている。 △日本の国土と人々のくらしや日本の食料生産に関する定着には課題がある。	5年 →情報量が多いために読み取れていない可能性があるため、資料に取り組む前にどのあたりに注目すべきか明確にさせてから、取り組ませるようにする。 6年 →地球儀や ICT を活用して、地図の見方や人々のくらし、日本の食料などについては、要タイムや毎日の家庭学習で復習する機会を増やし、継続的に指導していく。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
自分の考えを数学的な表現で簡潔明瞭明確にまとめ、互いに説明し合い、話し合いの視点を明確にして議論する力を養い、数的処理力（計算力）、数量感覚、図形処理力、論理的思考力と表現力の5つを育成する。 →基礎基本の定着のため朝学習を活用。 →自分の考えを広げたり、深めたりするために伝え合いを行ったり、友達の考えをノートに写したりして学び合う。 →体験活動を充実させ、教師が意図的に日常の中で結び付けて提示していく。 →自力解決のヒントとなるよう視覚的な提示を行い（見通しをもたせる）、自分の考えをしっかりと持たせる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・たし算・ひき算を理解している。 ・10までの数の構成を捉えている。	・具体物や半具体物を使って活動しながら理解させる。
低	2年 ○10までの合成分解が早くなって基礎的な力がついた。 △20までの繰り上がり下がりがかすぐに答えられない児童が多く、大きな数のひき算に時間がかかったり間違えたりする。 △時計の時間のとらえ方の理解が低い。	→今後の掛け算九九も含め、基本の計算を朝学習で継続して取り組む。 →筆算の書き方を統一して徹底する。 →具体物を使って操作する。日常の中で意識的に使う。家庭と連携。
中	△数的処理力が全体的に低い。 △数量感覚が全体的に乏しい。 △自分の考えはもてるが、それを式として表すことが難しい児童がいる。	→朝学習（要タイム）を利用し、正確な数的処理を繰り返し行わせる。 →授業内で物を測る、量る等、量を見るなどの体験を繰り返し行い、感覚を身に着ける。 →他の児童の考えをノートに書かせることにより、図と式表現を繋げていく。
高	5年 △計算の仕方は理解しているが、文章題を読んで、なぜその式になるのか、説明したり表現したりする力に課題が残る。 6年 ○多角形と円、合同と比例・単位量あたりの大きさは、区の平均正答率を上回っている。 △面積・小数の計算などには、課題が残る。	5年 →授業中に立式した理由を交流したり、発表させたりする時間を積極的にとっていく。 6年 →各図形の面積を求める公式を復習し、習得させていく。また、小数の計算では、小数点の動かし方を復習し、正しく計算できるよう支援していく。 →面積を求める公式の掲示、タブレットを活用しての計算練習を充実させる。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
自然の事物・現象の性質や働きについての理解を深めるとともに、観察・実験などを通して、問題解決する力を育成する。 →生活経験の差を補うため体験の共有を行い(児童の持っている情報の共有やタブレットの活用、学級での体験活動など導入の工夫)、児童が自分で問題を見付けていくしかけ作りを行う。 →「問題→予想(仮説)→手立て→実験→考察→結論」の課題解決学習の流れを定着させため、<u>板書を全校で統一していく。</u> →タブレット等を使った実験技術の確認。→自力解決できるよう、視覚的な資料の提示。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△生活経験から問題、予想を立てることに差がある。 △実験技術が身につけていない。	→単元に入る前に、学級で単元に関わる体験を十分にを行う。 →タブレットで実験の様子を撮影し、正確に実験ができていどうか、振り返りを行う。
高	5年 △結果から考察する力に課題がある。 6年 ○人のたんじょうや顕微鏡の使い方の学習は区の平均を上回っている。 △天気の変化の学習は、区の平均正答率は、下回っている。	5年 →一人で考える時間を取った後に、考えを交流する時間を設けることで、考察の書き方や表現の仕方を身に付けることができるようにする。 6年 →天気の変化に関しては、タブレット PC を活用して復習する。その際、天気の映像や天気図など、視覚的に分かりやすい資料を提示し、習熟させていく。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりでとらえ、比較や分類、関連付け、試行、予測、工夫などを通して、自分自身や自分の生活をよりよくしようとする態度を育成する。 →児童が自ら学びを作るよう、教師が意図的な授業を行う。(理科・社会・総合の土台) →地域や保護者との体験活動を多く取り入れていく。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・身の回りの自然に関心を持ち、大切にしようとしている。	→校庭や公園の自然を観察させる。 →アサガオのお世話や観察を通して、気づきを深められるようにしていく。
低	(2年) ○国語の単元と連携したことで、観察の観点が育った。 ○地域の方にお世話になったおかげで元気な野菜が育った。△児童とのかかわりをもっともちたい。	→問題解決学習の流れを教員がしっかりと把握して授業を行う。 →地域の方との交流機会をもつ。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じたり味わったりしながら、音楽表現をするための自分の思いや意図をもって演奏表現できる力、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。 →【器楽】発達段階や児童の実態に応じた練習場面の設定。 →【歌唱】発達段階に応じたねらいの明確化。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○歌唱では、生き生きと歌う児童が多い。 △器楽では、指を動かすことに課題が多く、鍵盤ハーモニカの技能の力に差がある。	→歌唱では、丁寧に歌うことを意識しながら、低学年らしい元気で明るい声の音色で歌えるようにする。 →器楽では、パペットなどを利用して、児童がくり返して指を動かす機会を多く設定し、鍵盤ハーモニカの技能の力を高める。
中	○歌唱では、丁寧な発声をしたり、思いをもった表現をしたり、意欲的に歌う姿が見られる。 △器楽では、友達と音を合わせたり、音の大きさを加減したりすることに課題がある。	→歌唱では、よい響きのイメージをもたせ、自分の声と周りの声を合わせて、みんなで歌う楽しさやそのよさを味わわせて歌の力を高める。 →器楽では、スモールステップでこつこつと楽器の練習に取り組めるように授業を展開し、個の力をつける。合奏では個の力を生かせる担当楽器を用意（編曲）し、友達の音を聴いて合わせる合奏の楽しさやよさを味わえるようにする。
高	○歌唱では、自分の声を人に聞かれる恥ずかしさや自信のなさを感じている児童が少なくなく、歌声として声を出すことに課題がある。 △器楽では、意欲的に進んで楽器の演奏に取り組む児童と苦手意識から取り組みに課題がある児童がいる。 きれいな音色で演奏できる児童とそうでない児童の力量の差が課題である。	→歌唱では、児童が恥ずかしさを感じる場面や環境をつくらないように配慮しながら、児童が興味関心をもてる範唱や動画などを活用して、歌う気持ちを育てていく。 →器楽では、児童が自信をもって活躍できるように楽曲を編曲したり難易度を調整したりして、友達と音を合わせる合奏の楽しさやよさを味わえるようにする。 そのために、演奏の基本（楽譜の読み方、演奏の仕方、指遣い）を自分が知りたいときに確認（掲示やタブレット）できるようにする。児童自らも困ったときは、「HELP」発信ができるように支援していく。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
つくりだす喜びを味わいながら主体的に造形活動に取り組み、様々な関わりの中で自分の見方や感じ方を深め、楽しく豊かな生活を創造しようとする児童を育成する。 →児童の意欲・関心を引き出す題材設定。導入の工夫によるめあての明確化。 →様々な造形体験、活動の振り返りの充実。 →発達段階や個に応じた指導。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しく活動に取り組むことができる。新しいことにも積極的に取り組むことができる。 △形や色などの感じを基に自分のイメージをもち、発想や構想をすることに課題がある児童がいる。	→児童の興味・関心を引き出すような題材設定とともに、視覚的にわかりやすい導入で、めあてをそれぞれが理解できるようにする。 →様々な造形体験を積み重ねてつくりだす喜びを感じられるようにする。活動の振り返りを通して、自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じ取れるようにし、自他を認めることができるようにする。
中	○発想力が豊かで、楽しく積極的に活動に取り組むことができる。 △材料や用具を適切に扱い、手や身体全体を働かせて表し方を工夫することに課題がある児童がいる。	→材料や用具の適切な使い方や表し方の工夫を身に付けられるよう、必要に応じたタイミングで指導する。 →様々な造形体験、活動の振り返りを通して、つくりだす喜びを感じられるようにし、友達との関わりを通じて見方や感じ方を広げられるようにする。
高	○主体的に活動に取り組むことができる児童が多い。 △めあてを意識し、発想力を働かせ、最後まで作品に取り組むことに課題がある児童がいる。	→経験を総合的に生かせる題材の設定をし、より主体的に取り組めるようにする。 →めあてを毎回振り返り、自分なりの時間の使い方の見通しがもてるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
衣食住や消費・環境などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭を大切にする心情や家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。 →実技での個人差を補うため、補助的な器具の使用や保護者・地域人材の活用。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	5年 △裁縫の学習では、生活経験不足や手の巧緻性による実態により実技での個人差が大きい。	5年 →補助的な器具を使用したり、個別に指導をしたりすることで、経験を積ませていく。
	6年 ○主体的に活動に取り組んでいる。 △調理実習では、生活経験の不足により、実技での個人差が大きい。	→実生活と関連を図りながら課題を設定し、問題解決学習を取り入れる。 →体験的な活動を通して、学習で身に付けた知識・技能を、家庭や地域で実践につなげる。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
タブレットPCを活用し、効果的に振り返ったり、自分の運動する姿を見返したりすることで課題を明確にし、課題解決に向けて話し合ったり、試行錯誤しながら学ぶことができる。また、課題解決に向けて自分にあった練習の場を選択し、個別最適な学びを進めることができる。 →児童の課題がある動きについては、授業の導入等を使って継続して取り組む。 →話し合い活動をすすめるために、話し合いの型を提示したり、話し合いの素地である円滑な人間関係を築く。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	(2年) ○体力向上の「投げ」の取り組みを行ったことで、投げる意識が高まった。 △走っているだけで転んだり、うまく跳べずにつまずいたりする児童が多い。	→体力向上の取り組みとして、「跳ぶ」も行っていきたい。 授業の始めのサーキットなどで継続 して取り組んでみたい。
中	△走ることは好きであるが、道具を使ったり、複雑な動きをすることには抵抗感と課題がある。 △体力テストでは、投げることや持久力に課題がある。 △チームでめあてに向けての話し合いがすすみにくい。	→動きを細分化して、説明したり、動画でお手本を見せ、自分でも動画を撮影して比べたりして、動きをできるようにしていく。 →投げる動きや持久力を付ける運動を 授業内で日々取り入れていく 。 → 話し合いの型 を示し、めあてに到達しやすくする。
高	△体力テストの結果から、男女で体力の差が激しいことがわかる、特に女子に瞬発力系に課題がある。 △コロナ禍による経験不足のため、友達と協力したり話し合ったりして運動をすすめていく力に課題がある。	→ 学習の導入で、投力や瞬発力を上げるための取組を継続 して行っていく。楽しく運動できるように、ゲーム化したり、音楽を取り入れたりする。 →体づくり運動で、協力して取り組む機会を増やしたり、ボール領域や器械運動領域でも協働的な学びを増やしたりすることで、協力して運動をしていく雰囲気づくりを醸成していく。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。 →話す・聞く場면을意図的に多く設定。 →高学年では、書く時間を設定。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	(2年) △楽しんで行っているが、毎時間行っている挨拶等基本的な文型がまだ覚えられていない児童もいる。	→ペアで聴きあうなど、意図的に声に出す機会を多く設定する。
中	○積極的に声を出して、楽しんでいる児童が多い。	→ALT と連携し、全体の場での発表も促し、さらに英語に慣れさせていく。
高	5年 ○ヒアリングはできている △罫線ののちでの書き方に不慣れな児童がいる。 △積極的なコミュニケーションが乏しい。 6年 ○ヒアリングは、概ね聞き取ることができている。 △習った表現を使ってコミュニケーションや発表の場では、決まったフレーズになり、広がりは見られない。 △書く活動では、手本を基に書こうとしているが、知らない単語をどのように書いたらよいか迷って手島宇治動画いる。また、罫線の中での書き方に不慣れな児童がいる。 △積極的なコミュニケーションが乏しい。	5年 →書く時間を毎回少しずつでも確保するようにする。 →アクティビティを充実させていく。 6年 →ALT や教材の英会話を聞き、外国語に慣れさせる。 →児童が興味をもてる身近な題材でALTとのスモールトークを充実させ、外国語を聞き、話したいという意欲を高めながら、学習した表現を使って話す活動場面を作る。 →簡単な語句を語順を意識しながら書く機会を増やしていく。また、タブレットや資料を基に自ら調べて書く活動を増やしていく。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養い、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的实践力を育成するものとする。 →展開での自我関与（主人公を通して、自分を投影）を充実できるよう、教師の問い返し。 →実際の生活場面での結び付け。（別葉の活用含む）		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	2年 ○自我関与しやすい教材については、振り返りもよくかけるようになってきた。 ○他教科と違って正解がない教科なので、発表が苦手な児童が積極的に挙手している。	→振り返りの視点の提示を行うことで、振り返りの仕方を身に付けさせる。
中	△自分事として考えられていない児童が多い。	→自分だったらどうするか、という登場人物の立場に立って考えることを常に授業内で行っていく。
高	△模範的な回答ができる児童がいるが、実際の行動に結びつかない。	→学習した内容をトラブルが起きたときに振り返るようにすることで、実際の行動につながっていくようにする。

12 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、タブレットPC等を活用して情報を集め、整理・分析してまとめ表現することができるようにする。 ・SDGsに関する活動を通して、自分のこととして捉え、実践できるようにする。 →体験活動や伝え合いによる体験の共有をベースとした学習。 →自分の考えをわかりやすく伝えたり、相手の考えを受け止めたりする話し合い。 →「見る人・聞く人」を意識した発表。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△体験差があるため、個人での課題をもつことにばらつきがある。 △自分の意見に固執してしまい、共同学習が難しい児童がいる。	→話し合い等で体験を共有することや、日々の学校生活で体験を増やすことで、個人差をならし、課題をもてるようにする。 →話し合いの際に自分の意見がどのようにすればわかりやすくみんなに伝わり、受け入れやすくなるかの例を示して、学習をすすめる。
高	△調べること、発表することに個人差がある。	→発表する機会を積極的に設けることで、個人差をならしたり、他者意識をもって発表ができるようにする。

13 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合って合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことができるようにする。 →あたたかい聴き方(相手を見る、相づちを打つ、うなずく、拍手等)・やさしい話し方(反対意見の言い方、反対の時の代替案等)を実践する。 →小グループでの話し合いを多く設定し、司会をなるべく多く経験させる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	2年 ○司会台本があることで話し合いの流れが定着した。司会グループのそれぞれの役割を理解することができた。 ○自分の考えを、理由と共に言える児童が増えてきた。 △自分と異なる意見には反対意見として相手を否定したり、きつい言葉を使ったりする。	→相手の話を聞く際には、うなずく、相づちを打つ等あたたかい聴き方を実践する。 →反対意見の出し方に気を付ける。質問という形で発言させる。「～が心配です。」「～はどうですか？」
中	△他人事して話し合いに参加している児童がいる。 △司会をする力が全員についていない。	→少人数での話し合いを増やし、参加意識を高める。 →国語とのカリキュラムマネジメントで少人数での司会を全員が体験することにより、力を伸ばしていく。
高	△話し合い活動で相手の意見を否定的に捉えてしまう傾向がある。 △話し合いの進め方を理解していない。経験が不足している。	5年 →話し合いの経験を増やしていく。 →反対意見を言うときには、代替案を提示できるように指導していく。

14 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	学年行事に参加。グループに入り、自然な中で関わりができています。	→各行事の関わりだけでなく、日常の中でのやり取りを意図的に作っていく。
中	学年行事等に参加できている。	→授業内での交流を図っていく。
高	出前授業や移動教室の事前学習に参加している。	→様々な機会を通して、接点を持てるような時間を増やしていく。

